



「地理総合」で教科書はこう変わる —新版教科書の活用例—

東京都立国際高等学校 川島 勇行 (かわしま・いさゆき)

—使用教材—

『高校生の地理総合』
『新詳高等地図』
『標準高等地図』



1 はじめに

4月から新学習指導要領がスタートした。すでに1年生で「地理総合」の授業が始まっている学校も多いと思う。地理が専門の先生にとっては念願の必修必修化であろう。しかし、地理の専門の先生がいない学校にとっては戸惑いも多いかもしれない。そのような状況のなかで、令和5（2023）年度以降版『高校生の地理総合』は幅広い校種の多様な生徒たちが学習しやすい構成になっており、地理を専門としない先生方でも指導がしやすい教科書となっている。『高校生の地理総合』を使った場合の授業例についてまとめてみたい。

2 「地理総合」で求められる学習内容

『高校生の地理総合』（以下、教科書）では学習指導要領の大項目「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」、「B 国際理解と国際協力」、「C 持続可能な地域づくりと私たち」に対応した1部から3部までの3部構成になっている（図1）。

1部は大項目Aに対応しており、1章では緯度・経度や時差から始まり、地図の役割や地理情報システム（GIS）の有用性について地理的スキルも含めて学習する内容となっている。2章では国家の領域や日本の位置、グローバル化が進むなかでの国家間の貿易や交通・通信、観光や人の結びつきの深さを地図を通して学ぶ内容となっている。

2部は大項目Bに対応しており、1章では生活文化の多様性を学ぶ内容となっている。1節・2節では世界の自然環境と人々の生活、3節・4節では世界の産業や宗教・民族・言語と人々の生活を系統的に学ぶ。そこで学習した生活文化を考察する視点を踏まえ、5節では世界からみた日本の生活文化に加え、「自然環境」、「産業」、「宗教・歴史」、「結びつき」をテーマに分類したより具体的

な追究事例の舞台として10地域を取り上げており、その地域の生活文化を通して、さまざまな地理的環境が複雑に関連し合って形成されていることを考察できるようになっている。

それぞれの事例の舞台となる地域の最初に生徒の興味を引くイラストマップと主題が設定されており、事例に沿って「なぜそのような生活文化が存在し、どのような人々が暮らしているのか」や「地理的環境が生活文化にどのような影響を与え、それが育まれてきたのか」、また「地理的環境の変化がどのように人々の生活文化を変容させたのか」などが学べるようになっている。

2章では1章で学習した多様な生活文化を持つ国際社会が、持続可能な社会を目指して地球的課題を解決するためにどのような取組がなされ、今後どのように取り組んでいくべきかを思考する学習内容となっている。その際、関連するSDGsの目標も取り上げながら自分たちにできる取組も考えさせる工夫が必要となる。

3部は大項目Cに対応しており、1章では日本の変化に富んだ地形や気候と自然災害への対応について学習する。また、2章では生活圏にある課題の調査と解決に向けた地域づくりについて学習する内容となっている。

3 「生活文化の多様性と国際理解」 単元の授業像

それでは教科書を活用した授業例について考えてみたい。2部1章5節の「多様な生活文化と地理的環境」の事例6では「宗教・歴史」のテーマ事例で「伝統の継承と生活文化の関わり—ヨーロッパ—」を扱っている。主題を受けて伝統の継承と人々の生活や文化との関わりについて、街並みや宗教、食文化、伝統産業、結びつきの変化などに着目してヨーロッパを舞台に学習する。

まずp.118のイラストマップを導入に使用し、今回扱う学習の舞台となるヨーロッパの生活文化に関する予

多彩な世界……………巻頭 1
多様性に富む現代に暮らす私たち……………1

もくじ……………2
本書の使い方……………5

1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界

1章 地図や地理情報システムと現代世界

1節 地球儀と地図……………6
1 地球上の位置と地上の現象……………6
2 経度の違いと時差……………8
SKILL 1 等時帯図を読み解く……………9
3 球体と平面の世界……………10
2節 地図と地理情報システム……………12
1 地図の種類……………12
2 地理情報システムの利用……………14
SKILL 2 地形図の見方と利用……………16
SKILL 3 グラフのつくり方……………17
SKILL 4 統計地図の見方……………18

SKILL 5 簡略区分図のつくり方……………19
SKILL 6 地理地図の利用……………20
2章 結びつきを深める現代世界……………22
1節 現代世界の国家と領域……………22
1 国家の領域と国境……………22
2 地図から見る日本の位置と領域……………24
2節 地図から見る国内や国家間の結びつき……………26
1 グローバル化と多様な結びつき……………26
2 拡大する貿易……………28
3 世界を結ぶ交通・通信……………30
4 観光と人の移動のグローバル化……………32
1部のまとめ……………34

2部 国際理解と国際協力

1章 生活文化の多様性と国際理解

序説 生活文化の多様性……………36
1 生活文化を考察する視点……………36
1節 世界の地形と人々の生活……………38
1 生活と気候の関わり……………38
2 河川がつくる地形と人々の生活……………40
3 海岸の地形と人々の生活……………42
4 氷河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活……………44
SKILL 7 地形図からみた地形と土地利用……………46
2節 世界の気候と人々の生活……………48
1 生活と気候の関わり……………48
SKILL 8 雨雲図の見方……………50
SKILL 9 景観写真の読み取り方……………51
2 熱帯の気候と人々の生活……………52
3 乾燥帯の気候と人々の生活……………54
4 温帯の気候と人々の生活……………56
5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活……………58
3節 世界の産業と人々の生活……………60
1 生活を支える産業の発展……………60
2 生活を支える工業の発展……………62
4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活……………64
1 宗教・民族・言語の多様性……………64
2部1章のまとめ……………66
5節 多様な生活文化と地理的環境……………68
1 国際理解を深めるために……………68
2 世界から見た日本の生活文化……………69

事例1 産業・経済発展による生活文化の変化—東アジア—……………72
1 多民族国家における経済発展—中国—……………74
2 多様な食文化と生活の変化—中国—……………76
3 巨大な人口と暮らしの変化—中国—……………78
4 都市生活と広がる格差—中国—……………80
5 経済発展と変化する産業と生活の変化—韓国—……………82
事例2 結びつきと他地域との結びつきが生活文化に与えてきた影響—東南アジア—……………84
1 手動農具の影響を受ける生活文化……………86
2 海上交通の歴史と民族共存の工夫……………88
3 農産物の輸出と生活環境の変化……………90
4 経済発展に伴い変わる生活……………92
事例3 宗教・歴史・文化と生活文化の関わり……………94
1 ヒンドゥー教と共にある生活……………96
2 食文化と食料生産の変化……………98
3 急速な経済発展と宗教への影響……………100
事例4 自然環境・気候と生活文化の変化……………102
1 中央アジア・西アジア・北アフリカ……………102
2 乾燥した風土の中で育まれた多様な文化……………104
3 乾燥地域で生まれた宗教と生活への影響……………106
4 豊かな石油資源と生活の変化……………108
事例5 宗教・歴史・文化と生活文化の関わり……………110
1 サハラ以南アフリカ……………110
2 植民地支配の影響と多様な文化……………112
3 植民地支配によって変化する産業と食文化……………114
4 経済的自立に向けて変化する生活……………116

大項目A

大項目B

事例6 宗教・歴史・文化の継承と生活文化の関わり……………118
1 ヨーロッパ……………118
1 古い街並みとキリスト教文化……………120
2 伝統的な食文化と地域による違い……………122
3 物を大切にすることと文化と環境への配慮……………124
4 地域統合と生活の変化……………126
事例7 自然環境・気候と生活文化にみられる工夫……………128
1 ロシア……………128
1 寒冷地での生活と人々の工夫……………130
2 気候に合わせた食文化と生活の変化……………132
事例8 産業・経済発展による生活文化の関わり……………134
1 アメリカ合衆国……………134
1 移民が支える産業や社会……………136
2 大規模な農業がもたらす食への影響……………138
3 世界に広まった生活様式と最先端の技術……………140
事例9 宗教・歴史・文化の継承と生活文化の関わり……………142
1 ラテンアメリカ……………142
1 多様な民族によって生まれた独自の生活文化……………144
2 伝統的な食文化と農業開発の歴史……………146
3 生活に支えられた食文化と伝統的な生活……………148
事例10 結びつきと他地域との結びつきが生活文化に与えてきた影響—オセアニア—……………150
1 多文化社会に基いた暮らし……………152
2 移民の影響を受けた食文化と伝統的な生活……………154
3 強まるアジアとの結びつき……………156

2部1章のまとめ……………158
アクティビティ 楽しい海外旅行を計画しよう！……………160

3部 持続可能な地域づくりと私たち

1章 自然環境と防災

1節 日本の自然環境……………188
1 日本の自然環境と人々の生活……………188
2 地震・津波や火山活動による災害と防災……………190
2節 地震・津波や火山活動による災害と防災……………190
1 地震・津波災害と地域の取り組み……………192
2 火山の恵みと噴火による被害……………194
3 火山災害と地域の取り組み……………196
4 地震・津波や火山活動への対策と共生の道……………198
3節 気象災害と防災……………200
1 きざま気象災害……………200
2 気象災害と地域の取り組み……………202
3 気象災害への対策と共生……………204
SKILL 11 地理地図で見る自然災害による被害……………205

2章 地球的課題と国際協力

序説 複雑に絡み合う地球的課題……………162
1 地球的課題と解決に向けた目標……………162
1節 人口問題……………164
1 人口の増加と少子化・高齢化……………164
SKILL 10 人口ピラミッドの読み取り方……………166
2 地域で異なる人口問題と取り組み……………166
2節 食料問題……………168
1 飢餓と食料……………168
3節 都市・居住問題……………170
1 都市への人口集中・居住問題と取り組み……………172
2 地域で異なる都市・居住問題……………174
4節 感染症・衛生問題……………176
1 広がる感染症と衛生問題……………176
5節 資源・エネルギー問題……………178
1 限りある資源・エネルギー……………178
2 地域で異なる資源・エネルギー問題と取り組み……………180
6節 地球環境問題……………182
1 国境を越えて広がる地球環境問題……………180
2 地球温暖化と国際的な取り組み……………182
2部2章のまとめ……………184
アクティビティ SDGsの目標をどうやって達成するか?……………186

主体的・対話的で
深い学びが実現できる
アクティビティ

4節 自然災害への備え

1 被災への取り組みと被災地への支援……………206
SKILL 12 災害の発生を新設地図の比較でとらえる……………208
SKILL 13 ハザードマップの見方……………209
2部1章のまとめ……………210
アクティビティ 自然災害から命を守ろう！……………212
2章 生活圏の調査と地域の展望……………214
1 地理的な調査テーマの設定……………214
SKILL 14 WebGISを活用した統計地図のつくり方……………216
2 事前調査と現地調査……………218
SKILL 15 生活圏の調査を新設地図の比較でとらえる……………219
SKILL 16 調査結果の分析と仮説の検証……………220
3 調査結果のまとめと地域づくりへの参画……………222
SKILL 17 調査結果のまとめとプレゼンテーション方法……………223

大項目C

さくいん……………224 世界の家畜・畜産物・農産物……………巻末 1

【使用上の注意】図名には略称を用いています。主な略称は以下のとおり。
中国・中華人民共和國 韓国・大韓民國 北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国

図1『高校生の地理総合』のもくじ

備知識を生徒に問う（図2、次頁）。このイラストを利用して、「歴史建造物や宗教に関するもの」、「食文化に関連するもの」、「産業に関するもの」などをそれぞれ色マーカーで囲むなどして生活文化を整理してみることから始めてみる。令和4（2022）年度以降版地図帳『新詳高等地図』（以下、新詳）p.45～46、『標準高等地図』（以下、標準）p.37～38と見比べながら国名とイラストを一致させるのもよい。そこから次ページ以降の「1 古い街並みとキリスト教文化」や「2 伝統的な食文化と地域による違い」等の授業へとつなげていくことで学習効果のあるものになる。また、イラストにはリンクするページも載っているので、生徒の実態に応じ、イラスト表示された文化に関する内容を調べることもでき、他のテーマや分野との関連性も含めて探究活動に利用することができる。

p.120の「古い街並みとキリスト教文化」では、写真1や写真2からヨーロッパがキリスト教文化の影響を受けながら古い街並みが残されていることが分かる（図3、次頁）。生徒たちにとってクリスマスは楽しいイベントとしてしかイメージができないかもしれない。しかし、「この写真を見て、古い歴史的な街並みについてどのように思うか？」⇒「おしゃれ!」「行ってみたい!」や「古い街並みは何に利用されているのか?」⇒「教会など宗教施設を中心に、商業施設や観光地…」、「なぜ

残しているのだろうか?」⇒「繁華の歴史、自分たちのアイデンティティ、経済効果…」など生徒との問答を通して、生徒の興味・関心を引き出すことができる。

次に「なぜヨーロッパには古い街並みが残っているのか」という問いを立て、写真2のワルシャワ歴史地区の写真では世界遺産というキーワードから登録が年々増えている日本とヨーロッパの違いを比較してみるとよい。登録数が多いイタリア、ドイツ、スペイン、フランスがそれぞれ40以上あるのに対し日本では25となっている（2021年現在）。登録数に違いがあるのは、世界遺産条約への批准が他地域と比べて早かったこともあるが、「建造物は何でできているのか? 素材は何?」⇒「ヨーロッパは石材使用が多いため保存しやすい。一方、日本は木材が多い」や「保存されやすい要因として、何が少ないと保存されやすいか?」⇒「ヨーロッパは戦災はあったものの大規模な自然災害は少ないが、日本は大規模な自然災害が多い」など日本と比較しながら生徒に問いを与え、生徒に調べさせたり、図表やデータを与えて考察させたりすることができる。

そして、「古い街並みや文化の継承とキリスト教や歴史はどのように関わっているか?」という問いを立て、日本の様子と比較してみる。日本でも神社や寺からその地域の歴史を感じるのと同じように、宗教が地域の歴史や伝統行事に影響を与え、宗教の伝承がその地域の生活

事例6 宗教・歴史⑥ 伝統の継承と生活文化の関わり ―ヨーロッパ―

主題 受け継がれてきた伝統や宗教は、人々の生活や文化にどのような影響を与えてきたのだろうか。
現代にみられる文化や産業には、古くからの伝統が継承されてきているものも多い。ここでは、伝統の継承と人々の生活や文化との関わりについて、街並みや宗教、食文化、伝統産業、結びつきの変化などに着目しながら、ヨーロッパを舞台にみていこう。

○事例の舞台 ―ヨーロッパ―



興味・関心をもって学習に入れるイラストマップ

図2『高校生の地理総合』p.118

文化や政治経済に影響を与えていることを学習する。

そして p.121 の本文や写真4、5、図3から地域によってキリスト教の宗派が異なることを読み取り、その際、地図帳（新詳 p.62 ④、⑤や標準 p.144 ⑤、⑥）と一緒に参照することで、宗派の分布と言語の分布が重なる地域がかなりあることに気付かせる。

15世紀以降、活版印刷技術と宗教改革によって聖書が普及したことも踏まえ、言語が宗教の伝播に与える影響なども考察させることが可能である。その際、標準 p.143 ②を活用して、「キリスト教がどのような地域まで広がっているか」や宗教別・地域別の人口などを読み取らせて、新大陸やアフリカへヨーロッパからキリスト教文化とともに移民が増加したことや植民地化政策などの歴史的背景があることで世界宗教になってきた経緯を学習する。

また、キリスト教文化という共通の価値観を持つ土壌が「4 地域統合と生活の変化」で扱う EU の発展に影響を与えていることを確認させておくことと今後の学習の関連性の気付きにつながることもなるだろう。

歴史が専門の先生方であれば「クリスマスって何だろう？」という問いから、キリスト教の起源や宗派の違いなど歴史関連の学習からのアプローチも考えられる。地理は歴史的背景をもった空間現象でもあるので、今の宗派の地域分布が時を経てなぜそうなったのかを深堀りさせると地理だけでなく歴史の探究の学習にもつながる発展性を持っている。また、公民の先生方なら、EU という



1 大聖堂前の広場で開かれるクリスマスマーケット(ドイツ、ケルン、2018年12月)

1 古い街並みとキリスト教文化

学習課題を設置



2 第二次世界大戦前の街並みが再現されたワルシャワ歴史地区(ポーランド、2016年)
戦争によって建物の多くが破壊されたが、市民らが重宝の再建を目指して立ち上がった。建物は、昔の写真やスケッチなどをもとにして、レンガのひびに基き丹念に修復された。

学習課題 古い街並みや文化の継承は、どのように守られてきたのだろうか。歴史や宗教などに着目しながらみていこう。

現代に残る古い街並み ヨーロッパには歴史ある街が多く、100年以上も前につくられた建物が商店や飲食店などに使われ、石畳の道を自動車が行き交う。街の中心にある教会には礼拝のために人々が入り、その前の広場には食料品や土産物を売る店が市を開いている。冬になると、クリスマスマーケットが開かれ、クリスマスの飾りや菓子などを売る店が軒を連ね、家族連れでにぎわう。

ヨーロッパでは歴史や文化を保護しようとする意識が強く、外観を残しながらリフォームした建物が多い。修繕を繰り返しながら保たれる歴史的な景観により、地域固有の伝統や文化を理解しやすいことから、人々に過去の記憶を共有させる役割も果たしている。ヨーロッパには、城や宮殿など繁栄の歴史を示す建物が多い。その一方で、ポーランドのワルシャワ歴史地区のように、戦争によって破壊された建物を再建して、多くの犠牲と復興の歴史を今に伝える所もある。これらは世界遺産として登録され、国を越えた人類共通の財産として保存されている。

Key Words 世界遺産 キリスト教 カトリック プロテスタント 正教会 ラテン語系 ゲルマン語系 スラブ語系

図3『高校生の地理総合』p.120

う政治・経済連合の根底にもキリスト教の思想があることを踏まえてアプローチすることができよう。

4 「自然環境と防災」単元の授業像

3部1章の「自然環境と防災」では「1節 日本の自然環境」の学習から始まり、「2節 地震・津波や火山活動による災害と防災」、「3節 気象災害と防災」と進み、「4節 自然災害への備え」という構成になっている。日本の自然環境やさまざまな自然災害については中学校でも学習した内容である。地図帳（新詳 p.155～157、標準 p.123～126）を用いて日本周辺にあるプレートの位置と地震や火山の分布との関係を確認しながら横断的に復習していくと授業時数的に効果的な学校もあるだろう。自然災害と防災については教科書の事例（東日本大震災 p.192、阪神・淡路大震災 p.193、普賢岳 p.196、桜島 p.197）を中心に確認し、世界の事例も含めてそれぞれ地域の特徴によって防災対策が違うことやどのように共生していくことが大切かについて考察させる学習ができる。また、標準 p.125～126 の「⑥地図から読み解く防災」には治水地形分類図、浸水推定段彩図、洪水ハザードマップなどさまざまな地図データから浸水被害が想定できるところに避難所の設置や北陸新幹線の車両基地があることを読み取らせるなど地理的スキルを学べる教材がある。

新学習指導要領では「人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して（中略）地域性を踏



図4 『高校生の地理総合』 p.212～213

また防災の重要性などを理解し、そのために必要な技能を身に付けられるようにすること」が求められている(下線は筆者)。それに適した教材が教科書 p.212～213 のアクティビティ「自然災害から命を守ろう!」である(図4)。このアクティビティについて次のように取り組ませたい。

Mission ①…イラストマップを見て自然災害の危険を地形や自宅や学校の位置から読み取る。自然災害別に当てはまるものに○を付けることになっているが、さらに「どこが危険な場所になるのか?⇒海岸に近い、河川がある、山の斜面、標高差、鉄道や道路等の交通網、高層建築物、工事現場、駅やスーパーなどの人が集まる場所は避難場所として適当な場所か?」等、問いかけをプラスアルファすることもできる。

Mission ②…とるべき避難行動の優先順位を選択する。自分の命を守ることを優先に考えながらも家族の設定を加えているので、違う場所にいる人物の避難行動を考えるきっかけにもなり、それぞれが違う避難場所に避難し、互いに助かるための手段を共有することを考えさせることができる。

Mission ③…避難場所へのルートを選択する。必ずしも最短ルートがベストとは限らず、さまざまな状況を読み取らなければならない。Mission ①で問いかけた地理的環境やハザード情報の活用が求められる学習活動である。

Mission ④…避難所の支援体制について考える。持続可能な地域づくりのために災害への支援体制はどうあるべきかを考察し、最後にグループでMission ①～④に対する自分の意見を紹介して再検討の余地を確認する。

仮想シミュレーションではあるが、このアクティビティを通して自然災害や防災を自分事として受け止める機会

〈参考文献〉
・文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』

になる。実際に津波警報等を経験する地域の生徒もいれば、海を目にすることもほとんどなく、全くの他人事の生徒もいるだろう。しかし、遠足や修学旅行に行った時や個人旅行を想定した時など身近に感じるシチュエーションを授業で設定するとリアリティのあるものになるだろう。

5 おわりに

共通必修科目「地理総合」は2単位しかないのに教科書の分量は多いと感じる先生もいるだろう。教科書の「生活文化の多様性と国際理解」の単元のように生徒の興味・関心に応じて追究事例をうまく活用し、生徒がその地域の生活文化とその背景にある自然環境や歴史的背景との関連性に気付き、世界の多様性を生み出す地理的環境を考察できるように工夫していきたい。一方、大学入学共通テスト等大学進学対策にも通用するさまざまな地図や資料、写真を読み取り、思考力・判断力・表現力等を身に付けていくことも求められている。学校の特色によりさまざまな生徒がいるなかで、教員が学習内容を理解し、限られた授業時数と学習スタイルを工夫しながらカリキュラム・マネジメントをしていくことが大切であろう。日本の高校生たちが、複雑で多様な世界がグローバル化によって今や身近なところにあることを理解し、地理に対する興味を持つきっかけになり、それぞれの興味・関心に従って探究していける力を身に付けてほしいと考える。